

氏名(本籍)	芦立 剛樹 (宮城県)		
学位の種類	博士(学術)		
学位記番号	甲第 368 号		
学位授与年月日	令和 2 年 9 月 24 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項		
研究科・専攻名	工学研究科・基盤工学専攻		
学位論文題目	A study on the effect of performance-based valuation system of traders working for institutional investors on trading behavior 機関投資家に勤務するトレーダーの成果主義による評価制度が取引行動に与える影響の研究		
論文審査	(主査) 高知工科大学	教授	那須 清吾
	高知工科大学	准教授	上村 浩
	高知工科大学	准教授	草川 孝夫
	高知工科大学	准教授	石谷 康人
	高知工科大学	技術顧問/名誉教授	永野 正展

## 審査結果の要旨

### 1. 論文の評価

審査委員の一致した評価としては、

1) 本研究は、機関投資家で働くトレーダーの売買行動が成果主義による評価制度(インセンティブ)等の影響によりどの様に変化して、そればバブル発生の様な FV から乖離した現象を発生させるのかという疑問に答える研究である。

2) しかし、インセンティブによりバブルが発生することは既に様々な研究で実証されており、それ自体には新規性は認められない。しかし、その心理プロセスモデルおよび要素間関係性の詳細については説明されたものはない。

3) 本研究者が共同で高知工科大学で行った実験経済学実験において示された売買行動においてバブルの発生が認められたが、本研究ではその売買行動プロセスから心理構造を推論するとともに、現役トレーダーのインタビューからも心理構造を推論し、これらの結果を統合することで成果主義その他の要因がどの様に連関しているかを示す心理構造モデルを構築した。

4) 心理構造モデルの妥当性を更に検証するため、トレーダーに対して心理構造モデルの各要素に関わるアンケート詳細を実施し、その要素間連関を統計的検定により確認することにより妥当性を示した。

5) 実験経済学の手法を取り入れ、その成果を経営学的手法による推論する定性的研究を行うとともに、データ解析による定量的研究で結果の不確実性を小さくする研究手法をとっている点で固有である。

6) ただし、最終試験において指摘された以下の内容について論文を修正することを求める。

① 実験経済学実験の成果は部分的に先行研究として扱い、実験に基づく成果は売買行動データによる推論部分とすること。

② 研究の主要成果は、実験経済学の推論結果およびトレーダーに対するインタビュー・アンケート調査により推論と定性的研究結果の定量的検証部分による心理構造モデルとする。

## 2.審査の経過と結果

- (1) 令和2年7月1日 博士後期課程委員会で学位論文の受理を決定し、5名がその審査委員として指名された。
- (2) 令和2年8月21日 公開論文審査発表会及び最終試験を実施した。
- (3) 令和2年9月4日 博士後期課程委員会で学位授与を可とし、教育研究審議会で承認された。